

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： がんに起因する宿主の多細胞連関の異常に関する統合的研究
2. 研究代表者： 河岡 慎平（東北大学 加齢医学研究所 准教授／京都大学 医生物学研究所 特定准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、がん悪液質の病態解明を目指し、がん悪液質における宿主病態生理のメカニズムを明らかにして、がん悪液質を強力に抑制する方法を見つけることを目的としている。

フェーズ1では、ヒト肝臓のゾネーションの破綻や、ニコチンアミド-N-メチルトランスフェラーゼががん依存的なウレア回路の異常（肝臓代謝変容）に関与していることを発見した。また、マウスモデルだけでなく、乳がん患者のがん転移時のCD169+マクロファージの減少や低アルブミン状態と免疫抑制も明らかにしており、評価できる。フェーズ2の研究計画において、がん悪液質の発症機構を明らかにすることが重要なポイントであり、研究の幅を広げる一方、独自性を失うことにならないよう、悪液質に軸足をおきつつ研究を展開されることを期待する。

以上